

今から5年前といえば、そろそろ子供がほしいと思い始めていた時期で、私なりに着々と準備を進めていた。無駄遣いはやめて貯金を心がけ、子持ちの友だちからたくさん話を聞き、仕事は前倒しで進め、シッターさんを探し、制度を調べ、近所の保育園を気にし始めたのもこの頃である。夫と話し合い、育てる環境を一緒に整えた。育児書や産後のメンタルや夫婦関係による手引書は、日本語で出版されているものはだいたい全部読んだ。それから間もなく、妊娠する。

当時のことを考えると、子を持つワクワクよりも、戦地に向かうような恐怖と緊張がはるかに上回っていたように思う。武器を一つ一つ時間をかけ吟味して身につけ、完全武装するような気持ちだった。そして2020年6月を迎えた私が、あの時の自分に言うことが一つあるとしたら、残念、その武器はすべて使えなくなる局面がやってくるよ!ということだ。

そもそも、出産した瞬間から、あれれ?の連続だった。あんなに綿密にスケジュールリングしたにも関わらず、産後の体調不良と寝不足のせいで、仕事は滞った。乳腺炎というものが歯がガタガタ鳴るほどの寒気と激痛のコンボだなんて知らなかった。保育園は40個落ちることになる。お金はぎゅっとするようなスピードでなくなった。ベビーカーで外出したら、見知らぬ男性に後ろから蹴飛ばされて子供ではなく私が泣き出してしまった。仲間たちとはそもそも会う時間さえない。そしてこの春、とうとうコロナ禍に直面し、すべては破綻した。苦勞してやっと入った保育園は休園、母やシッターさんと呼ぶことはかなわない。私は肺に疾患があるため、外にでないといけなく夫とは距離をとって暮らすほかなく、ワンオペ育児をしながら自宅で仕事をするようになる。

あれだけ準備してきた時間とはなんだったんだろう。真夜中、ぼんやり思った。私だけじゃない。ケア労働を担う日本の母親は、なんでこんなに孤独で、なんでこんなに自己責任で歯を食いしばらないといけないのか、それでも破綻する原因ってなんなのか、ずっとずっと考えていた。

ふと鏡を見たら、汚れた部屋着に裸足で疲れ切っている自分が、「ダイ・ハード」という映画のブルース・ウィリス演じるジョン・マクレーンそっくりで驚いた。ベテラン刑事が別居中の妻が出席する企業のパーティーに顔を出したら、なんとそのビルが凶悪犯にハイジャックされてしまう、アクションムービーの金字塔である。マクレーンは銃を持っているものの、すぐ奪われ、いろんな不運が重なって裸足で半裸、丸腰でテロと戦う。時には消火器とかガムテープとか、その辺にあるものを駆使し、時にはテロリストたちから奪った武器で、まあぼろだいたい素手である。私はブルース・ウィリス、私はヒーロー。この難局を乗り切るために自己暗示をかけ、今までのポリシーと知識はすべて捨てることにした。というのは、「ダイ・ハード」で命を落とすのは、常識にとらわれた人々ばかりなのである。

長々と言い訳したが、この2カ月は子供にユーチューブを見せっぱなしにして、その間に仕事をしてきた。泣いたらグミかアイスに口を突っ込んで黙らせた。つとめて遅寝遅起きさせて、私の執筆と睡眠時間も確保した。

5年前、ドキドキしながら大量の武器をぎゅっと握りしめていた私を思い浮かべると、いじらしいと思う。なんて声をかけてあげていいのかわからず、迷う。ただ、一つ言えるのは、そもそもそんなに準備しなければ、子供を産むことさえできないこの国ってなんだかわかんないか? 当時の私が社会のあり方をそこまで疑問に思わなかったのは、やっぱり恥ずかしいと思う。自分だけはなんとか適応してうまく乗り切ろうと、武器を買い占め、絶対に離すまいとしていた。そこに同じ母親たちへのいたわりの視点や問題意識はあったのだろうか。

「ダイ・ハード」が素晴らしいのは、マクレーン刑事は妻を守りたいとか妻とやり直すために戦っているのではないところだ。マクレーンは妻に謝りたいと思って、そのために命を張っている。かつて妻のキャリアアップを邪魔しようとしたこと、辛い時に応援しなかったことを反省し、彼女の目を見てお詫びを言うためだけに、ガラスの破片で血まみれになりながら、たった一人で戦っているのだから。

母親が武装することなく、そこまで緊張することなく、育児できるのが正しいあり方ではないか。私は今後も丸腰のまま、この主張を口にしていきたい。遅ればせながら、同世代や次世代の子育て環境が少しでもよくなるために、できることから始めたい。反省することができるのが、やっぱり真のヒーローだと私は思うのだ。

—— 柚木麻子

# ママに武器なんて いらなない

# VERY

2020年 VERY8月号 創刊25周年特別企画  
「私たちは5年前から進歩したのだろうか?」に  
寄稿いただいた柚木麻子さんのエッセイより抜粋  
© 渡辺謙太郎 (MOUSTACHE)

VERY1月号は12月7日(月)発売

スマートな装いがママを元気にしてくれる!

“子連れ”という名の  
あれこれオシャレ悩み、  
一挙解決!



12021 Annuaire

私たちに、新しい時間割り

毎月7日発売  
定価780円  
(税込)  
光文社

こんな時代だからこそ、ママ友同士で助け合い

前田敦子さん×ヨンアさんの、子育てシスターフッド

共働きファミリーが多い芝浦・田町界隈のママたちが証言

夫婦の新しい形・  
平日ワンマイルデートで  
オシャレが変わった!

スニーカー派・亜希ちゃんと、ブーツ派・まりあちゃんの  
「ZARAでリアルに買ってみた」

着ぶくれしがちな冬のおしゃれ偏差値を楽しみ上げる!  
“下半身ほっそりセット、考えました”

今まで以上に制限が多い乳幼児期。せめて、小物で上げたい!  
ベビーカーママの投資先は  
「靴とピアス、ときどきバッグ」